

## 2011 Abstracts for Specially Funded Research

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2013-01-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: KAWAKAMI, Masahiro メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/3856">https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/3856</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



## 日本語の特色を考慮した視覚的単語認知に関する総合モデルの構築

心理学部 発達教育心理学科 川上 正浩

### 本研究の目的

本研究課題の目的は、視覚呈示された日本語の単語処理に関する知見を統合することにより、従来提案されてきたモデルを修正・拡張し、総合的なモデルの構築することにある。このため、単語認知過程研究を専門とする他大学の研究者複数名と共同で研究を進める。

視覚呈示された単語の認知に関する研究の中心課題は、人間が視覚的な情報(形態情報)からいかにして音韻情報と意味情報とを抽出しているのか、を解明することにある。平成23年度は、この点に関して、以下の2つの研究を遂行し、その知見を学会にて発表した(川上・西尾・小野・佐々木, 2012, 増田・Joyce・小河・藤田・川上, 2012)。

### 今年度の成果

#### 1. 漢字二字熟語の意味的透明性のデータベース構築

語彙処理研究を進める上で、語彙データベースの整備は必要不可欠である。日本語以外の諸言語を実験材料とする研究では、単語の意味的透明性が語の認知過程に影響を及ぼすことが報告されており、漢字二字熟語のような複合語を多数有する日本語について、意味的透明性のデータベースを構築することは喫緊の課題である。本研究では10,015語の漢字二字熟語を調査対象とした上で、意味的透明性として、試験的に熟語の意味とその第一構成要素すなわち第一文字目の漢字の意味との関連性についての評定課題を実施した。

まず全調査協力者に共通して評定作業を求める語115語を選定し、残りの9,900語を990語ずつの10リストに無作為に分割し、いずれかを各調査協力者に割り当てた。各調査協力者は、初日に共通の115語について評定し、以降の9日間で、割り当てられたリストの語に対して、1日110語ずつの評定作業を行なった。各リストに対して評定を行なった協力者数は3ないし5名であった。調査協力者は、まず各熟語の読み方と意味のそれぞれの知識の有無について回答し、次に熟語の意味と、その第一文字目の漢字の意味との関連性について6件法で回答を行った。

結果から、熟語の読み方と意味の既知性に着目して、全熟語を未知語、不完全既知語、既知語に分類した。既知語のみを対象に、出現頻度と意味的透明性の平均評定値の相関係数を求めたところ、その絶対値はきわめて小さな値であった( $r = -.061$ )。

次に、意味的透明性の評定者間によるばらつきのある大きな熟語を探索的に調べたところ、“英語、空手”のよ

うに、第一構成要素の漢字の意味が多義的であるものや、“温床、銀行”のように、熟語の意味表示の際に第一構成要素の意味を比喩的に利用しているものが認められた。このことは、実験条件として意味的透明性を操作する際に注意すべき点である。

#### 2. 漢字の音韻情報抽出過程の検討

視覚呈示された単語の認知過程においては、その形態情報に基づく活性化が生起する一方で対応する音韻表象も活性化される。そして活性化された音韻表象は形態表象レベルへとフィードバックされる。この過程において、形態表象から音韻表象への対応の一貫性のみならず、音韻表象から形態表象への対応の一貫性も重要である。漢字においても、形態-音韻対応(特定の文字が複数の音韻を持つ、等)と音韻-形態対応(特定の音韻を持つ文字が複数存在する、等)とが存在するが、本研究では、漢字における音韻-形態対応の一貫性が、音韻情報抽出過程及ぼす影響を検討した。方法として、ランダムに配置された文字セットの中から特定の音韻を持つ文字を探し出す文字サーチ課題を用いた。

実験参加者は先にカタカナで呈示される音韻を持つ文字がその後に表示されるランダムに配置された8文字の文字セット内に存在するかどうかを判断するよう求められた。文字セットは漢字セット、仮名セットの2種類からなり、さらに、発音と漢字の対応から、当該発音から想起されうる漢字の種類が多寡によって、VH条件とVL条件とが設定された。実験の結果、仮名セットにおいてはVL条件、VH条件の反応時間に差異は認められないが、漢字セットにおいては、当該発音から想起されうる漢字種類が多いVH条件で反応時間が長いことが示された。これは、漢字の音韻情報抽出に形態表象と音韻表象との相互作用が重要な役割を担っていることを示していると解釈された。

### 引用文献

- 川上正浩・西尾麻佑・小野菜摘・佐々木美香(2012). 文字サーチ課題における漢字の音韻情報抽出過程の検討 日本認知心理学会第10回大会発表論文集, 37.
- 増田尚史・Terry Joyce・小河妙子・藤田知加子・川上正浩(2012). メンタル・レキシコン研究(XVI)漢字二字熟語の意味的透明性のデータベース構築に向けて(1) 日本心理学会第76回大会発表論文集, 665.